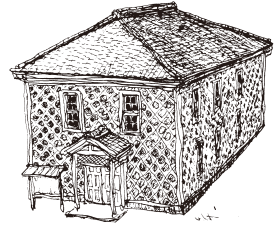


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875(明治8)年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

おおもりまさひと
大森正仁

慶應義塾の一貫教育

慶應義塾には幼稚舎と横浜初等部という小学校が二校、中学校として普通部、中等部、湘南藤沢中等部の三校、高校として慶應義塾高等学校、志木高等学校、女子高等学校、湘南藤沢高等学校、ニューヨーク学院の五校があります。

疲れを知らないかのように元気な小学生、少し背伸びをし始めている中学生、大学生になる直前の大人びた高校生が、それぞれの学校それぞれの学年で特徴のある授業を受けています。教えている教員も、教育内容も各校の特色を発揮し、個性豊かな生徒諸君を育てています。八〇〇〇名を超える諸君が学んでいます。大学入学の際には同じ学年に約一五〇〇名の学生が進学しますので、約二万八〇〇〇人の学部生のうち約六〇〇〇人が出身者ということになります。

これらの学校はかつて諸学校と呼ばれていましたが、一九九〇年代後半からの慣行を踏まえ二〇〇二年に総称を「一貫教育校」と変更することになりました。これに先だつて二〇〇〇年には一貫教育支援センターが発足して、さまざまな関連業務を各校の事務室とともにを行っています。支援センター

は当初、一貫教育を担う学校の変革支援と総合的事務支援をその中心業務としていました。そこに至る道筋もその後の現在までの道程も平坦なものではなかったと思います。

現在の形から未来へどのような道を一貫教育、そしてそれを担う一貫教育校は歩むのでしょうか。かつて英国のイートン校を訪れた際に、これから学校評価を受けるという教員に、そのような必要があるのですかと尋ねたことがあります。その際の答えが印象的で、第三者から見てもより良いものにするための意見があるのならそれを楽しみにしているということでした。自校の教育に自信を持ちつつ、あるいは持つがゆえに他者の評価に耳を傾けるという姿勢が六〇〇年を超える歴史の礎なのかと感心しました。

慶應義塾の一貫教育校に共通しているのは学則にも書かれた「福澤諭吉の教育精神に基づき」という目的です。各校の生徒諸君が福澤諭吉の教育精神を会得して大学生となり、高等教育を受けてさらにグローバル社会へと飛躍してくれるものと信じております。そのために何よりも必要なことは一貫教育における国際化と少人数教育であると考えています。